



「かかりつけ医」ってなあに?

患者支援センター 社会福祉士 岩崎和也



「かかりつけ医」とは、日常的な健康管理やちょっとした体調不良など気軽に診てもらえる、地域の診療所のお医者さんのことです。普段から診てもらっている「かかりつけ医」を持つことで、体調の変化や病気の困りごとを日頃から相談することができます。そのため、話しやすくなり、信頼関係が高まります。そして、病気の早期発見ができ、検査・専門治療・入院などの必要な場合は、病態に応じた専門病院を紹介してくれます。

当院では、手術や検査などの専門治療を担当し、状態が落ち着かれたら、また「かかりつけ医」にご紹介します。このように、患者さんが安心して治療を受けていただけるように、かかりつけ医の先生と密に連携を取っています。

まだ、「かかりつけ医がない」という方、当院の患者支援センター担当者にお気軽にご相談ください。一緒に「かかりつけ医」をお探しします。

かかりつけのお医者さんにご相談を

体調に不安があり、治療についてもっと詳しく相談したいなどの場合は、まずはかかりつけの先生にご相談ください。

当院では、かかりつけの先生としっかり医療連携を行い皆さんの健康を支えます。



健康教室を開催します。

日 時：平成30年5月19日(土) 14:00～15:00
場 所：きらりホール
講 師：整形外科 西山 隆之 主任科部長
内 容：「あきらめていませんか? 下肢関節の痛み」
参加費：無料 定 員：150名(申込不要)

平成30年5月より毎月開催します

第3回小児科 公開講座を開催します。

日 時：平成30年5月23日(水) 13:00～15:00
場 所：きらりホール
講 師：小児科 橋本 総子 医長
テーマ：第1部 「子どものアレルギーについて」
第2部 「子どもの病気の初期対応」
参加費：無料
定 員：50名(要申込)



メモリードック(認知症ドック)のご案内

認知症には様々な原因がありますが、初期症状として「もの忘れ」が多くみられます。これらの症状をできるだけ早く見つけ出し、必要な対策や治療を行えば、認知症の進行を遅らせたり、ある程度改善させることが期待できます。ぜひご利用ください。

料金：¥35,800(消費税込)

詳しくはTEL 079-451-8703(直通)
[平日(10:00～17:00)]にご連絡ください。
またはホームページをご覧ください。



加古川中央市民病院 人間ドック

検索

ボランティアをしてみませんか

当院では、来院される患者さんやご家族の支援を職員とともに協働してくださる病院ボランティアを募集しています。

ボランティア活動の内容

- ☐ 外来受診のお手伝い
(受付、院内の案内、車椅子の介助)
- ☐ 縫製
- ☐ その他(院内行事のお手伝い 等々)



問合せ 079-451-5500(代表)
担当者/ボランティア コーディネーター

詳細は、当院ホームページへ

会計窓口受付 平日の時間が延長になりました

変更前 自動精算機又は4番会計窓口(8:45～17:15)

変更後 自動精算機又は4番会計窓口(8:45～19:00)

がん相談支援室

専任の看護師や社会福祉士が、不安や悩みについてお話を伺いながら一緒に状況を整理し、病気の向き合い方や生活を考えるサポートをしています。お気軽にご相談ください。

対象：がん患者さんやそのご家族、周囲の方
(当院にかかっていない方でも可)

相談料：無料 受付時間：平日9:00～17:00

直接お越し頂く場合：1階2番中央受付にお声かけ下さい

お電話で予約を取って頂くと確実にです

お電話の場合：079-451-5500(代表)



地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

〒675-8611 兵庫県加古川市加古川町本町439番地

TEL：079-451-5500(代表)

http://www.kakohp.jp/

受付時間
診療受付時間…(月～金)
8:00～11:00
診療時間…(月～金)
8:45～17:00
休 診 日…土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始12月29日～1月3日

加古川市民病院機構から地域の皆さまへ



2018
5

特集

当院の新しい治療



新治療 TAVR がはじまります

大動脈弁狭窄症の新しい治療法です。手術が困難な高齢者の方や他の疾患をお持ちの患者さんに、有効な治療が当院ではじまります。

詳しくは、特集②をご覧ください。

乳腺外科が本格始動！

乳腺外科に3名の常勤医師(荻野医師、佐古田医師、稲尾医師)が赴任しました。4月から外来診療を拡充し、入院診療も開始しています。乳がんをはじめ診療の幅が広がりました。

詳しくは、特集①をご覧ください。



加古川市民病院機構

当院の新しい治療

① 乳腺外科 ～4月から新たに診療科に加わりました～

平成30年4月から乳腺外科に常勤医師が3名赴任しました。
スタッフ一同、‘患者さんに寄り添う診療’を目指していきます。



乳腺外科 医師 稲尾 瞳子
乳腺外科 主任科部長 荻野 充利
乳腺外科 科部長 佐古田 洋子

乳腺疾患には、

- ・痛みを訴えることの多い乳腺症
- ・つるつとしたしこりとして触れる繊維腺腫や嚢胞
- ・膿んで皮膚が赤くなったりむくんだりする乳腺炎
- ・乳頭から液の出る乳管内乳頭腫
- ・男性の乳輪あたりに押さえると痛いしこりの出来る女性化乳房

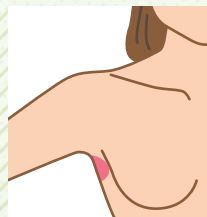
などの色々な疾患があります。



大事なのは“**乳がんではないと診断すること**”です。

こんな症状が
気になって
いませんか？

乳房や脇の下あたりの硬いしこり、へこみ、発赤、むくみ、
乳頭の1ヶ所から淡く赤い液が出る、乳頭がただれる など。
これらはいずれも良性疾患だけでなく**乳がんでも見られる症状**なのです。



乳がんで亡くなることを限りなく0にするために、まず患者さんにしていただきたいことは**しっかり検診を受けること**です。検診によって超早期の乳がんもたくさん見つかるようになっていきます。
一方で、がんではないのに要精査と判定され不安になる方がより少なくなるよう、私たちも検診の精度を上げる努力をしていきますので宜しくお願いします。



検診のない間は自己検診が大事になります。
何か気になることや異常を感じたら、まずはかかりつけ医にご相談ください。

乳がんは早く診断、治療すれば
根治する可能性が高いがんです。*

10年生存率
79.3%

※独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター2014年公表

私たちは“**ほっと安心の乳腺診療**”を目指します。

4月から乳腺外科の診療の幅が広がりました。心臓疾患の治療では、**TAVR(経カテーテル的大動脈弁移植術)**がはじまります。

② TAVR ～経カテーテル的大動脈弁移植術～

大動脈弁狭窄症の新しい治療です。

大動脈弁狭窄症とは、心臓の大動脈弁の開きが悪くなり、血液の流れが妨げられる病気のことです。重症になると、突然死に至ることもあります。
大動脈弁狭窄症は、重症化すると外科的な手術が必要になる為、体に負担が大きくなり、高齢者の方や他の疾患をお持ちの患者さんには治療がむずかしくなっていました。そこで当院では、

からだに負担が少ない治療である **TAVR 治療** を始めます。



心臓血管センター長(兼)手術部副部長
(兼)心臓血管外科 科部長

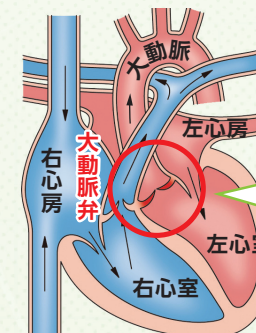
脇山 英丘



心臓血管センター 副センター長
(兼)循環器内科 主任科部長
角谷 誠

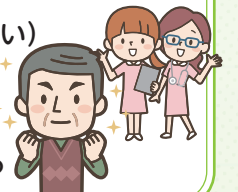


循環器内科 医師
寺尾 侑也



からだにやさしい TAVR治療の 最大の特徴

- ①人工心肺を用いない(心臓をとめない)
- ②手術で胸を大きく切らなくてよい
- ③手術が早く終わる
- ④手術のときより社会復帰が早くなる



大動脈弁狭窄症の治療について

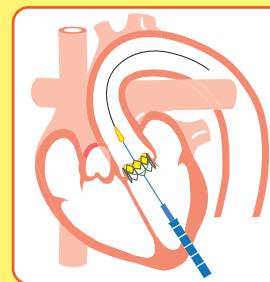


TAVR治療の対象となる方

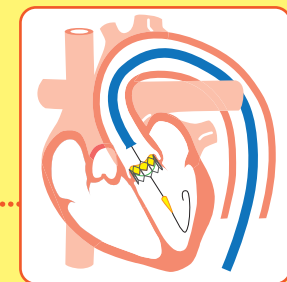
- ・外科的な手術が困難な高齢者の方
 - ・他の疾患をお持ちの方
- まずはかかりつけ医にご相談ください

治療方法が
2つあります

① 肋骨の間から



② 太ももの付け根から



カテーテルという道具を使用し、人工弁を留置します。診療実施の判断には、医師の診断が必要です。